校長室だより

２０２２年４月２２日
校 長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

コロナ禍と学校教育の危機

新型コロナウイルスの感染拡大による様々な対応が始まって，３年目を迎えました。

この緊急事態の中で，学校教育が直面する最も大きな危機は，もちろん，コロナウィルスへの感染そのものの脅威ですが，さらに，感染リスクを回避するための対応を模索する中で，子供たちの学習における体験的活動や対外的な発表の機会，地域社会との交流やふれ合い等が欠如し，子供たちの望ましい人格形成を図り社会性を養うという学校教育の目的達成のために極めて重要な活動が制限されていることも，コロナ禍の学校教育における深刻な危機の一つだと感じています。

大人にとっても「今」が大切であることはもちろんですが，子供たちにとっての「今」は，さらに重要です。３年が経過すれば，１年生は４年生に，６年生は中学３年生になってしまいます。子供たちにも現在の危機的な状況を説明して理解させることは必要ですが，ただ闇雲に「今は我慢しなさい」「今は諦めなさい」と言うことはできないと考えています。それは，子供たちにとってたった一度しかない，二度と戻らない「大切な『今を』諦めろ」と言うことになってしまうからです。

現在学校では，児童一人につき１台のノートパソコンが整備され，児童の学習ツールとして活用が進められています。インターネットを通して多くの情報を得ることができますし，自宅にいても，オンラインでの授業を受けることや，教師との対話，児童相互の交流等，双方向のやりとりも可能です。しかし，「オンライン」で，前述のような学校教育の目的のすべてを達成することはできません。

昨年度も厳しい感染状況の中ではありましたが，運動発表会，授業参観，修学旅行，野外活動，各学年の体験学習等，感染症対策のための規模の縮小や内容の見直し等を行いながらも，実施することができました。学習発表会など，その時期の感染状況によって中止せざるを得ないものもありましたが，子供たちにより多くの体験の場を与えられるよう努力して参りました。慎重に内容を検討しながら実施した「おやじの会」の皆様によるイベントも，子供たちにとって掛け替えのない体験となりました。行事や体験活動以外でも，日々の授業での学び合いや異学年間の交流，児童会による挨拶運動やいじめ防止活動の実施等，子供たちは互いに心を通わせながら，創意と意欲に満ちた学校生活を送ってきました。

今後，コロナ禍がさらに長引くことも予想される中で，「感染防止対策」を講じることは必須ですし，感染状況や社会情勢を注視し，教育委員会の方針を受けながら教育活動を進めることにはなりますが，日々過ぎていく子供たちの「今」を大切にして，個に対する学びの保証だけでなく，より多くの温もりのある体験を与えることも，学校教育の責務であると考えています。子供たちのために，「諦める」のではなく，「どうすれば」「何ができるのか」これからも職員や保護者の皆様，地域の皆様と共に考えて参ります。

コロナ禍における対応に限らず，学校はこれからも保護者や地域の皆様への情報提供に努め，常に皆様からのご意見もいただきながら，双方向の信頼関係を築くために努力を続けて参ります。今後も郡山小学校へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

切 り 取 り 線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと　など

2022 年 4 月 22 日（　）年（　）組 児童氏名